

環境事業団ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会議事要旨

- 1 開催日時 平成13年10月11日(木)16:00~19:30
- 2 開催場所 虎ノ門パストラル新館5階 蘭の間
- 3 出席者
永田委員長、酒井委員、田中委員、長谷川委員、原口委員、細見委員、森田委員、
若松委員、垣迫特別委員
- 4 議 題
公開
(1) ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会について
(2) PCBの処理技術及び環境安全施策について
(3) 北九州市のケーススタディについて
非公開
(4) 北九州市における事業の処理方式について
- 5 概 要
(1) ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会について
事務局より資料に基づき説明。北九州市担当職員の特別委員としての就任ならびに今後の日程を承認。

(2) PCBの処理技術及び環境安全施策について
事務局より資料に基づき説明。懇談会のとりまとめ資料として活用することを了承。

(3) 北九州市のケーススタディについて
事務局より資料に基づき説明。主な意見は次のとおり。
 - 北九州市として、特に重要な点は以下のとおりである。

- 安全性の確保には万全を期して事業を実施すること。
- 1期事業で北九州市分の高圧トランス・コンデンサを処理して、次いで福岡県分、他県分を処理すること。
- 1期事業終了後、2期事業前にはこれまでの中間的な総括を行うこと。
- 1期事業においては、バッチ確認体制は絶対である。
- 最初の2年間(1期事業)は2期事業に繋げるためにも重要であり、暴走しないシステムでお願いしたい。また、万が一の場合の影響が極力少ない方式としてほしい。
- 液処理のみでなく、液抜き、分解、容器処理、油処理、リサイクル・適正処理の一連の流れを総合的に評価してほしい。
- 本事業の実施にあたっては、総合エンジニアリング体制が不可欠である。具体的には1期事業から2期事業につなぐ時系列でのエンジニアリング、また液抜きからリサイクル・適正処理までの流れを総合的に捉えたエンジニアリングが必要である。
- ごみ処理施設の建設、操業実績に加えて類似の化学プラントの建設、操業実績を有する事業者には総合エンジニアリングを担当させてほしい。
- 不測の事態に備え、緊急時には技術者が責任をもって対応できる体制を地元にも有する事業者には総合エンジニアリングを担当させてほしい。
- 国内外の実績を有することは、地域の安心感につながる。
- PCBを無害化するシステムを考えるには、無害化を確認するためのPCBの卒業判定基準を明確にする必要があり、まだ決まっていない一部の検定方法について早く明確にすることが必要。
- 評価項目に「バッチ確認体制の確保」という項目があるが、これは処理の完了をバッチで確認するということであり、連続処理であっても対応可能な項目と考える。バッチ処理に限定することにより、他の優れた技術を排除することのないように留意すること。
- 処理技術のそれぞれの特徴は、トレードオフの関係にあり、例えば常温、常圧に近いという一つの項目を絶対視するのではなく、項目全体として総合的に見るのが重要。

- フェイルセーフを強調しすぎると、そのための安全装置が複雑化し、それがメンテナンスの問題につながり、ヒューマンエラーが生じるなどの逆効果を招くことがある点に留意すべき。
- 施設の初期の性能を維持するようなメンテナンスが重要であり、このことを通じた安全確保という視点も運転管理上の留意点として必要。
- 個々の要素技術ではなく、トータルシステムとして評価する考え方を支持。その意味からも、評価項目の「総合エンジニアリング体制」と「施設運転会社との密接な連携」は重要であり、具体の詳細な技術提案に基づいて評価する項目としてのみならず、処理方式の特徴や長所・短所の整理項目としても評価すべき。
- 処理の要素技術については、処理技術を有する企業のヒヤリング等で把握しているが、総合エンジニアリングの考え方については、該当するいくつかの企業に意見を聞いておくことが必要。

(4) 北九州市における事業の処理方式について

議題(2)の資料を参考に、北九州市における事業の処理方式について意見交換。また処理方式の選定に関する考え方や進め方を検討。

6 今後の予定

次回は、今回提案のあった確認事項に加え、各委員から追加の質問事項を提出ねがい、これを整理した結果をもとに、今回の議題(4)についての審議を継続することを了解。また、審議の内容から、次回は会議全体を非公開とする旨確認。なお、今後の委員会のスケジュールは、次のとおり。

- 10 / 24 (水) 11:00 ~ 15:30 場所未定
- 11 / 9 (金) 9:30 ~ 13:00 場所未定
- 11 / 20 (火) 9:30 ~ 13:00 場所未定

7 問い合わせ先

環境事業団 環境保全・廃棄物事業部 処理技術室

03-5251-1038